平成 26 年度事業 事後評価・決算

事務事業マネジメントシート

平成 27 年 6 月 1 日作成

事務事業名	下布施農村体験施設整備事業	所属部	政策企画部	所属課	地域振興課
総合計画体系 政策名	〈V〉挑戦し活力を産みだすまち≪産業≫	所属G	尾原ダム振興G	課長名	西村健一
施策名	〈38〉観光の振興	担当者名	吾郷雄一	電話番号	0854-40-1012
目的 対象	市外の人・市民	意図	市内観光地を訪れ、市内で消費してもらう。	（内線）	3519
基本事業名	〈117〉受け入れ施設の充実	予算科目	会計 款 大事業 大事業名		ダム対策事業
目的 対象	観光客	意図	受け入れ施設を整える。	項 目 中事業 中事業名	下布施農村体験施設整備事業
				4 0 0 5 0 2	
				0 5 0 5 0 8	

1 現状把握【DO】

(1)事業概要

① 事業期間

☐ 単年度のみ　☐ 単年度繰返（　年度～　）

☑ 期間限定複数年度（24 年度～ 27 年度）

② 事業内容（期間限定複数年度事業は全体像を記述）

下布施残土処理場にホースセラピー体験施設を整備する。なお、施設については、平成26年度から株式会社雲南TRCへの指定管理とする。
H24：実施設計
H25：交流施設、厩舎等施設整備
H26：駐車場整備（舗装等）
H27：厩舎等施設整備

(2)事務事業の手段・指標

① 主な活動

26年度実績（26年度に行った主な活動）	27年度計画（27年度に計画する主な活動）
駐車場等外溝整備（舗装等）	厩舎等施設整備

② 活動指標

	活動指標	単位	24年度（実績）	25年度（実績）	26年度（実績）	27年度（計画）
ア	工事・委託件数	件	1	5	7	2
イ						
ウ						
エ						

(3)事務事業の目的・指標

① 対象（誰、何を対象にしているのか）

整備事業

② 意図（対象がどのような状態になるのか）

着実に整備を図る。

③ 対象指標

	対象指標	単位	24年度（実績）	25年度（実績）	26年度（実績）	27年度（計画）
ア	契約数	件	1	5	7	2
イ						
ウ						

④ 成果指標

	成果指標	単位	24年度（実績）	25年度（実績）	26年度（実績）	27年度（計画）
ア	進捗率	%	4.9	76.0	88.0	100.0
イ						
ウ						

(4)事務事業のコスト

① 事業費の内訳（26年度決算）

工事請負費：13,066千円
委託費：　3,466千円
負担金（ケーブル）：3,509千円
その他（事務費）：　487千円

② コストの推移

			単位	24年度（決算）	25年度（決算）	26年度（決算）	27年度（計画）
事業費	財源内訳	国庫支出金	千円				
		県支出金	千円				
		地方債	千円	4,800	79,900	17,600	45,000
		その他	千円	397	101	2,928	
		一般財源	千円				
	事業費計（A）		千円	5,197	80,001	20,528	45,000
人件費	正規職員従事人数		人	2	2	2	
	延べ業務時間		時間	240	240	2,400	
	人件費計（B）		千円	940	934	9,331	
トータルコスト(A)+(B)			千円	6,137	80,935	29,859	

(5)事務事業の環境変化、住民意見等

① 環境変化（この事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか？ 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？）	② 改革改善の経緯（この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか？）	③ 関係者からの意見・要望（この事務事業に対して市民、議会、事業対象者、利害関係者等からどんな意見や要望が寄せられているか？）
尾原ダム地域に開かれたダム整備計画に基づき、残土処理場の基盤整備を国土交通省が行い、跡地を利用した施設整備を雲南市が行った。 その後、アンケート調査を踏まえ、地元の意向を把握したうえで整備を行ったものである。	新規事業のため改善なし。	旧木次町時代から熱望されている施設である。

雲南市（H27年2月改正版）ver.1.3

事務事業名	下布施農村体験施設整備事業	所属部	政策企画部	所属課	地域振興課

2　事後評価【SEE】

A 目的妥当性

① 政策体系との整合性　この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？　意図することが結びついているか？

☐ 見直し余地がある　☑ 結びついている　＊余地がある場合⇒

② 公共関与の妥当性　なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して達成する目的か？

☐ 見直し余地がある　☑ 妥当である　＊余地がある場合⇒

③ 対象・意図の妥当性　対象を限定・追加する必要はないか？意図を限定・拡充する必要はないか？

☐ 見直し余地がある　☑ 適切である　＊余地がある場合⇒

見直し余地があるとする理由

B 有効性

④ 成果の向上余地　成果を向上させる余地はあるか？ 成果を向上させるため現在より良いやり方ははないか？ 何が原因で成果向上が期待できないのか？

☐ 向上余地がある
☑ 向上余地がない

理由：尾原ダム地域に開かれたダム整備計画に基づき整備を進めるため。

⑤ 廃止・休止の成果への影響　この事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？

☐ 影響無
☑ 影響有

理由：地域振興策が一つ減る。

⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性　目的達成には、この事務事業以外の手段（類似事業）はないか？ ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか？

☐ 他に手段がある　＊ある場合⇒（具体的な手段や類似事業名）
　☐ 統廃合・連携ができる
　☐ 統廃合・連携ができない
☑ 他に手段がない

理由：国の直轄施設の周辺を活用した独自事業であり、類する事業はない。

C 効率性

⑦ 事業費の削減余地　成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）

☐ 削減余地がある
☑ 削減余地がない

理由：ワークショップの実施により、経費節減に努め、事業実施した。

⑧ 人件費（延べ業務時間）の削減余地　成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか？ 正職員以外や外部委託ができないか？

☐ 削減余地がある
☑ 削減余地がない

理由：ない。（コストに対する人件費は少ない）

D 公平性

⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地　事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？　受益者負担が公平・公正か？

☐ 見直し余地がある
☑ 公平・公正である

理由：雲南市全体へ受益がある事業であり公平・公正である。

評価の総括

① 1次評価者としての評価結果

A 目的妥当性	☑ 適切	☐ 見直し余地あり
B 有効性	☑ 適切	☐ 見直し余地あり
C 効率性	☑ 適切	☐ 見直し余地あり
D 公平性	☑ 適切	☐ 見直し余地あり

② 1次評価結果の総括（根拠と理由）

着実な計画の進捗が図られている。

3　今後の方向性【PLAN】

① 1次評価者としての事務事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可

☐ 廃止　☐ 休止　☐ 目的再設定　☐ 事業統廃合・連携
☐ 事業のやり方改善（有効性改善）　☐ 事業のやり方改善（効率性改善）
☐ 事業のやり方改善（公平性改善）　☑ 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）

着実な計画の進捗を図る。ホースセラピー事業：馬の力を借りて、メンタルヘルスの不調や不登校などで「生きることに困難」を感じている方や軽度発達障がいの方を含め、子どもから、高齢者までのあらゆる世代が必要とする現代社会を生き抜くための力を育む活動を実践していく。

② 改革・改善による期待成果

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持		●	×
	低下		×	×

廃止・休止の場合は記入不要。
コストが増加（新たに費やし）で成果が向上しない、もしくはコスト維持で成果低下では改革・改善とはならない。